

2011年度ノース・イースタン大学短期留学報告

明治大学政治経済学部では、昨年、一昨年に引き続き、8月の約1ヵ月間、アメリカ東海岸での研修プログラムを実施しました(※プログラム修了者には、GPAに算入される4単位の単位認定がなされます)。旅程は、まず、ボストンにある明治大学協定校ノース・イースタン大学(NU)に約3週間滞在し、その後、ニューヨークに5泊、そして最後にワシントン D.C.に4泊しました。参加学生数は政治経済学部生の14名(※他学部生の参加も認めています、本年度の参加者はゼロでした)で、TA1名と政治経済学部教員の松崎が引率をしました。

ノース・イースタン大学(ボストン)滞在

ノース・イースタン大学(NU)では、大学の学生寮に滞在しました(写真 01)。NU 教授陣による英語でのレクチャーは、計 12 回(※4 名の教員がそれぞれ 3 講義を担当)受けました(写真 02-05)。教員ごとのテーマは、アメリカ経済、社会問題、内政(とその歴史)、そして外交政策でした。学生たちは、英語で展開されるレクチャーについていくのに必死でしたが、大変よい勉強になったようです。ボストン滞在中はまた、NU 大学生が、バーベキューパーティを開いてくれたり、フェンウェーパークでの MLB レッドソックス戦のチケットを予約してくれたり、ビーチに連れて行ってくれたりするなど、終始、手厚い歓待をしてくださいました(写真 06-08)。フリーダム・トレイルを歩き、マサチューセッツ州議会を訪れるなどもしました(写真 09、10)。ボストン最終日には、日米の政治システムの比較、TPP 問題、外交政策、社会保障制度について、英語でプレゼンテーションを行いました(写真 11-14)。



[01] NU 寮



[02] NU Andrew Sum 教授による経済講義



[03] NU Gordana Rabrenovic 教授による社会問題講義



[04] NU Michael Tolley 教授による政治講義



[05] NUDavid Schmitt 教授による外交講義



[06] NU 生とのスポーツ交流



[07] NU 生との BBQ パーティ



[08] NU 生との BBQ パーティ



[09] フリーダム・トレイル



[10] マサチューセッツ州議会



[11] ボストン最終英語プレゼン



[12] ボストン最終英語プレゼン



[13] ボストン最終英語プレゼン



[14] ボストン最終英語プレゼン

ニューヨーク滞在

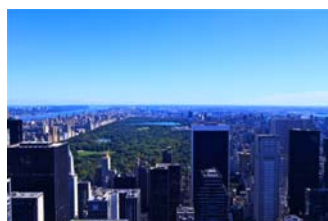
ニューヨークでは、自由の女神、セントラル・パーク、ロックフェラー・センターといった観光名所を訪れることはもちろんのこと、メトロポリタン美術館、ブロードウェイ・ミュージカル、ジャズといった文化的側面も堪能し、また、グラウンド・ゼロやニューヨーク証券取引所にも足を運びました(写真 15~21)。SOHO エリアでのショッピングを楽しむ学生も多かったようです。国連本部も訪問し、館内ツアーを受けるだけでなく(写真 22、23)、特別に国連本部政治局政務官(安全保障理事会担当)川端清隆様より国連の任務、業績等について貴重なブリーフィングをして頂きました。また、コロンビア大学も訪問させて頂き、キャンパス・ツアーを受けた後、日本経済に精通されている Hugh Patrick 教授から特別にお話を聞かせて頂きました。(写真 24)。



[15] 自由の女神



[16] セントラル・パーク



[17] ロックフェラー・センター展望台から見たセントラル・パーク



[18] ロックフェラー・センター展望台からの夜景



[19] タイムズ・スクエア夜景



[20] メトロポリタン美術館



[21] ニューヨーク証券取引所



[22] 国連本部ツアー



[23] 国連本部外観



[24] コロンビア大 Hugh Patrick
教授（中央）との記念撮影

ワシントン D.C.滞在

研修最終地となったアメリカ合衆国首都ワシントン D.C.では、スミソニアン博物館、ワシントン記念塔、リンカーン・メモリアル、ホワイトハウスといった主要観光スポットでアメリカの歴史を体感しつつ(写真 25～28)、世界銀行と日本大使館を訪問させて頂きました。世界銀行では、職員の畑島宏之様、松平忠承様、菅原直剛様より、国際公務員職について、採用までの道のりから実務内容まで、多角度から貴重なお話を聞かせて頂きました(写真 29、30)。菅原様には、明大政治経済学部卒ということもあり、ディナーをご一緒させていただき、やはり貴重な体験談を聞かせて頂きました(写真 31)。日本大使館では、藤崎一郎駐米特命全権大使より、直々に、学生にお話しをして頂きました(写真 32)。また、参事官の中村仁威様からも外交政策についての貴重なブリーフィングをしていただきました。日本帰国前日夜には、宿泊先のホテルにて 1 か月間生活を共にした仲間同士で打ち上げを行い、その際、英語での振り返りのスピーチも行いました。



[25] リンカーン・メモリアル



[26] ワシントン記念塔



[27] 国会議事堂



[28] スミソニアン博物館



[29] 世界銀行



[30] 世界銀行畑島宏之様か
らの講義



[31] 世界銀行菅原直剛様（左）
との交流



[32] 藤崎一郎駐米特命全権大使（1
列目中央左）との記念撮影写真（大
使のサイン入り）

おわりに

以上のとおり、本プログラムは稀にみる盛りだくさんの短期海外研修プログラムです。本プログラムを成功させるにあたっては、政治経済学部の大六野耕作学部長、高橋一行教務主任、小畑精和教授、堀金由美教授、Kevin Mark 教授、Philip Zitowitz 教授、武田巧准教授をはじめとする国際交流委員会委員のみなさま、学部事務のみなさま、そしてその他多くの大学関係者のみなさまより、多大なるご支援を賜りました。この場をお借りして御礼申し上げます。また、上記諸氏の他にも、NU 大学の Bruce Wallin 先生、NU 大学院生の Corey Maillette 君、NU 大生のみなさん(特に Dan、Marie、Tony)、コロンビア大学の水村笑子様、日本大使館の股野元貞参事官、阿部録明様には、大変お世話になりました。引率教員として、明治大学政治経済学部を代表し、みなさまにも、御礼申し上げます。そして、今年のプログラムの成功は、昨年、一昨年の本プログラム参加学生そして国際交流サポーターによる、実績の積み重ねの賜物でもあります。彼らにも御礼申し上げます。

来年度も本プログラムは開催予定ですので、学生のみなさんには、是非、参加を検討していただけると幸いです。次年度プログラムの説明会は、後日、開催します。興味のある学生は、Oh-o! Meiji や掲示板等で開催告知を確認するようにしてください。また、研修参加希望者には、前期開講の留学準備講座も併せて履修しておくことを強くお勧めしておきます。

以下は、少し長くなりますが、本年度の参加メンバーによる振り返りレポートからの抜粋です。

明治大学 政治経済学部 特任准教授
松崎武志(引率教員)

【研修参加学生の声(抜粋)】

総合感想

D さん: 初めての海外渡航、そして1か月という短い期間ではありましたが非常に効率的にアメリカの特徴・文化を体感することができました。学業の都市であるボストン、経済の中心地であるニューヨーク、政治の主要機関が集まるワシントンと非常に特徴的な都市を訪れることが出来たことがやはり一番の要因であると思います。今振り返ってみても非常に濃密なプログラムでした。

F さん: 家を1か月近くも離れるというのは初めてで、恥ずかしながらホームシックの心配もしていました。実際アメリカに到着してみると、楽しいことばかりでこの心配は見事に吹き飛びました。ボストンではノースイースタンの学生達が手厚く歓迎をしていただき、実に快適に過ごすことができました。天候にも恵まれ、気候も非常に私に合っており有意義な時間を楽しみました。

M さん: 今回の研修は私の19年間の人生において、とても貴重でかけがえのないものとなった。これまで、旅行でヨーロッパなどに行ったことはありましたが、実際に現地での大学で授業を受け、英語のスキルアップを目的に海外へ行くことは今回が初めて。毎日出会うもののすべてが新鮮で、この1ヶ月でたくさんのお話を学ぶことができた。

M さん: 学べることの多くが予測できない留学。海外に出ているいろいろな国を理解することで、初めて日本という国の輪郭が見えてきた気がする。自分とは何か、自分の本当にやりたいことは何なのか。それを見つけるのに大きな手助けとなる貴重な体験だった。

T1 さん: 今回の研修を終え、日本に帰ってきた今、私は、就職活動のこと、ゼミのこと、長期の留学のことなど、いろいろなことをより具体的に考えています。アメリカで一か月間生活をし、自分の英語力のなさを実感したこと、そして、英語を話せるようになりたいとより強く思ったことが将来や長期留学のことをよりしっかりと考えるきっかけになりました。

N1 さん: このプログラムでは英語や学術的な勉強や異文化の体験はだけでなく、多種多様な人と出会うことによって人間的に成長できるきっかけをくれました。残りの大学生活でこれらの経験を無駄にしないようにしていこうと思いました。

コミュニケーション全般についての感想

H1 さん: 今回の夏期短期留学に参加するうえで、自分で心に決めていたことがある。それは、「積極的に行動する」ということだ。積極的に授業に参加し、積極的に現地の学生と交流し、積極的に思い出を作る。このようなことを心に決めたのは、過去に今回のようなプログラムに参加した際に自分の積極性のなさを痛感し、悔しく思っていたからだ。よって、今回のプログラムでは常にこのことを意識しながら行動したつもりである。実際に、Facebook などを通じて日本に帰ってきてからも現地の学生と交流を持っている。積極的に行動する、ということはとても難しいと思う。特に、英語を使いながらさらに積極的にアプローチしていくことは殊更難しいことだと思う。しかし、自ら積極的に行動しなければ今回のような折角のチャンスを無駄にしてしまう、ということも分っていた。だからこそ、研修参加以前から覚悟を決めていたし、意識して行動した結果ある程度成果があったと思う。

N1 さん: 実際に来て、最初に感じたのはリスニングができないと、何もできないということです。それを一番感じたのが店で注文をするときでした。後ろに人が並んでいるので短時間でコミュニケーションをとらなくてはならないので焦ってしまったことや、食品の名前など知らない単語が出てきたときに間違って注文したことや、コミュニケーションが取れなかったことが多々ありました。ノースイースタンの学生は自分が話そうとしていることを懇意に聞こうとしてくれたので、何回も言い直したり、ジェスチャーを使って話したりすれば通じるのですが、相手の言っていることがわからないとコミュニケーションをとるときに致命傷になることを痛感しました。

H2 さん: アメリカでの生活で唯一辛かったのは言いたいことがうまく言葉にならないことです。簡単な単語なのに咄嗟に頭に浮かんでこないというもどかしさを何度も経験しました。つつこみを入れたいのに入れられないし、頑張って盛り上げたいのに盛り上げられない。日本ではなかなかここまでの状況に陥ることはないので、痛い思いをした分今まで以上に頑張って勉強していくと決心しました。

M さん: 実際に街へ買い物などに行くと、使いたい、使ったほうがいいフレーズは決まってくるなど感じた。だから、決まった会話表現を丸暗記しておくなど楽だなと感じた。リスニングの力も重要。これがしっかりしていないと相手との会話が成立しない。また、次に海外へ行くまでに、会話のバリエーション(ネタなど)を増やしたい。少しでも自分が詳しく知っていて、語れる話を持っていればそれだけで会話もスムーズにいくなり、友達もたくさんできる。

N2 さん: アメリカでの生活はもちろん基本英語でのやり取りで、最初の方は文法を気にしすぎたり、上手い表現が思い浮かばなかったり、無意識に話すことを躊躇していました。しかし、**NU** のサポーター学生さんたちと話し、買い物で店員さんとコミュニケーションをとるうちに、だんだんと英語を話すことに慣れてきて、自分から話しかけられるようになりました。上手くやろうとあれこれ考えるよりも、まずは積極的に挑戦してみることが大切だと実感しました。同時に、定型文のようなものを知っていると、円滑なコミュニケーションにつながるということも感じたので、ダイアログ(※)の勉強も続けていきたいと思いました。(※本研修参加希望者向けとして、前期に、引率者である松崎が「留学準備講座」を担当しています。その中で、大量の英会話フレーズ&ダイアログの暗記トレーニングを行っています。)

N3 さん: アメリカは、自分から主張していかないと何もしてくれないという個人の力を重視する国であったので、個人の積極性が求められているように強く感じた。そのため、このプログラムを通じて、以前よりも他人に対して積極的に相手と向き合うことができるようになったと思う。一方で、この経験から改めて日本人が外国人に対して消極的な態度をとりやすいことを実感し、国際社会ではそれにあった振舞い方をすることが大切であると感じた。

N3 さん: アメリカと日本の慣習には、大きな違いがあるが、自分は外国人である(自文化は優先されない)ことを自覚して、それに抵抗心を持たず合わせることができれば、現地の人から受け入れやすく、コミュニケーションもうまくいきやすいことが分かった。留学前から、異文化とのかかわり方について授業などで少し学んでいたもので、カルチャーショックとなるような部分もほとんど抵抗なく受け入れることができ、逆にその違いを楽しむことができたと思う。

T2 さん: 今回の研修を通して学んだこと。まずは人との付き合い方、コミュニケーションスキルです。ボストンでの**NU**学生たちとの友人としてのプライベートな付き合い方、また社会で活躍されている方たちや教授とのパブリックな付き合い方の2つがあります。双方に共通しているものは、“親しき仲にも礼儀あり”に表されるように最低限の礼儀・マナーを守ることでした。アメリカは言語的に明確化された敬語が無いためか、年齢や立場に関係なくフレンドリーに対等な接し方をしてくださる方が多かったです。積極的に発言・参加する姿勢も求められました。しかし、それは決して無遠慮なコミュニケーションを許しているわけではありません。私はそれを**NU**でのQ&Aや国連でのブリーフィングを通して学びました。Q&Aでは、いくら教授が親切に質問に応じてくださっていても、やはり講義とまったく無関係な質問や教授の専門外の質問がでた時には表情が曇っていました。そして国連においては、ある学生がお礼を述べずにいきなり質問を投げかけたり、職員の方の意見に疑問を呈したりした際に、完全に職員の方の機嫌を損ねてしまったことがわかりました。日本人が西洋文化に適応する際に、日本の美德——礼儀や謙虚さ・丁寧さを失ってしまうことはあってはならないと感じました。

M さん: 礼儀、敬語の重要性を(特に日本大使館訪問の際に)強く感じた。日本語で質問しようとしても、自分の敬語に自信がなく、発言することが少し怖くなってしまった。自信を持って発言し、将来活躍できるようになるためにも、礼儀の重要性を忘れず成長していきたい。

NU 教授による講義についての感想

U さん: Sum 先生の授業は日本語で聞いても難しいのではないかと、思うほどでしたが、とても優しく丁寧に教えてくださったので、興味をそそられるとともに、経済におけるアメリカと日本の違いなども学ぶことができました。Rabrenovic 先生の講義では日本ではあまり重視されていない問題について貴重なお話が聞けました。Tolley 先生は私の好きな部門のお話をしてくださったので、講義中はとてもわくわくした気持ちでした。DC の歴史や建設の計画、わたしはこのお話が今でも一番印象に残っていることです。最後に Schmitt 先生はとても親切で何度も聞き返してくれたり、質問はないのか、と聞いてくれたり人柄がとても印象に残っています。どの教授も親切でまた熱心に講義してくれたので感謝しています。

N1 さん: 大学の講義の中で最も驚いたことは、いろいろなタイプの先生がいるということです。英語に関しては、各先生の発音の癖や訛りなどいろいろな英語に触れることができ、日本で教材の CD でよく聞けるような発音だけではないということを感じました。授業の進め方も日本のような先生から生徒への一方通行に知識や意見を教えていく方法だけではなく、生徒に積極的に意見を求め対話の中から結論を導く方法を見ることができました。内容に関して、講義についていくことはとても大変でした。英語力の不足やその分野に対する基礎知識の欠如など理由はたくさんありましたが、その中でどのようにして最大限吸収できるようにするかを感じることができました。たとえば、もしわからない単語が出てきた場合メモだけしてその場で調べないで聞いて、話全体を聞いておくこと。そのほうが文脈から単語の意味が分かることもあるので効率的に勉強することができると考えました。さらに、経済分野だけでしたが、先生から配られた資料や論文を短時間に大量に読み込んでくる必要があるということを感じました。こういった大量のフォーマルな内容の英文をいかに速く読むかという課題を発見することができました。

M さん: NU 大学の講義を通して感じたのは、経済、政治、外交、社会問題などの基本的知識はある意味一般教養として知っておくべきということ。少しでもその分野を勉強していれば、英語で話したとしても理解度が全然違う。事実、私は経済の基本的メカニズムや機能をほんの少し勉強していたのですが、それだけでも Sum 先生の授業が聞き取りやすくなった(特に需要と供給曲線を使って説明したところなど)。また、自分の意見をしっかりと持つことが大事であり、このような知識は自分の意見を構築する上でも非常に大事なファクターだと思った。というのも私には自分の考える、思う、主張したい意見がなく、とても恥ずかしいというか惨めな思いをしたからである。先生などに質問をしようと考えても、相手の意見を聞くだけの形となり、自分の考える意見を言えなかった。周りの友達が質問しているときも、自分だったらこう思うといったものがまったくなくただ受身に聞くだけになってしまった。もし自分のオピニオンを持っていれば、先生の考えや友達の考えを自分のものと比較できるし、理解もいっそう深まると思う。

特にニューヨーク、ワシントン D.C. 滞在時についての感想

H2 さん: 私が最も勉強になったのは、国連・世界銀行・日本大使館を訪問することが出来たことです。私は世界を舞台に仕事をするということを目指して頑張ってきたので、実際にそのような方々にお会いして直に質問が出来たことはとても貴重な体験でした。特に日本大使館では藤崎駐米大使や中村様とお話し、日本を代表して働いていらっしゃる方々の考え方や物事のとらえ方には圧倒されっぱなしでした。中でも東北震災後の対応やイラク特措法の際の対応のお話はとてもおもしろかったです。私はちょうど明治大学の前期の授業で憲法9条に関してディベートを行っていたので、実際の現場でも自衛隊や憲法の曖昧さについて

て議論がなされていると知り、専門家のご意見を伺えたことは非常に勉強になりました。

U さん: ニューヨークとワシントンでは自分の人生において最も貴重といっても過言ではないほどの経験をさせてもらいました。国際連合でのツアーやブリーフィング、コロンビア大での Patrick 先生のお話、世界銀行の畑島様や菅原様、松平様、日本大使館での藤崎大使のお言葉は心に突き刺さるものばかりでした。Patrick 先生、世界銀行の菅原様、松平様からの「日本にとどまらず、海外に出て世界を知るべきだ」というお言葉は今も深く印象に残っています。留学するかどうか悩んでいる自分へのひとつの助言である、と受け止めています。また、藤崎大使の東日本大地震が起きた際の日本人の対応にアメリカは驚いていた、ということを知って日本人であることに誇りを持ちました。今回の経験を経て、自分という存在の小ささを感じました。世界はこんなにも広くて、目指すべきものはこんなにもいっぱいあることを身をもって体感することができました。この経験が無駄にせず、自分の将来へのひとつの経験として糧に大きくなりたいと思います。

F さん: ニューヨーク・ワシントンは観光する時間がたくさんあり、様々な名所を巡りました。特に印象に残っているのが、ロックフェラーセンタービルからの景色です。私には予備知識が全くなく、このビルがどんなに凄いのか認識していませんでした。

日本との比較という観点からの感想

N3 さん: 今回の海外経験は、私にとって初めてのものであったので、あらゆることが興味深いものばかりで、とても刺激的な大きな経験となった。一方で、日本の良さも改めて感じ、当たり前だと思っていた日本のおもてなしの心や、丁寧さは本当に日本が世界に誇れる素晴らしいものだと感じた。日本は、経済や技術面などでは世界有数だとよくいわれているが、このような文化もそれに匹敵するほど素晴らしいものだと思う。そう考えた私は、このプログラムを通じて、このような素晴らしいものでも、まだ世界には知られていないようなものを世界に発信し、それを使って国際社会で貢献できるような事を将来自分の仕事としてやっていきたいと強く感じた。

M さん: アメリカの文化と歴史は、日本文化とは大きく異なっていた。良い意味で自由奔放で何でも OK な世界。個人的にはとても好きな文化だし、この世界を学生のうちに感じる事ができてよかった。ただ、すべてをよしとして真似するのではなく、悪い側面もしっかりとみつめ、日本文化と日本人としての誇りはいつまでも持ち続けたい。

T1 さん: 日本の良さは、日本に帰ってきて様々なところで感じました。鉄道の正確さ、従業員の真面目さ、自動販売機やコンビニエンスストアなど・・・日本の技術力や治安の良さは世界に誇れるものだと実感できました。また、日本大使館のお話では、東日本大震災において、日本人が我先にと自己中心に行動せず、他人を思いやることのできる国民性を持っているとお話を伺って、改めて日本人の良さを感じることもできました。そのお話を聞いた瞬間は鳥肌が立って、感動をしたのを今でも覚えています。しかし、決して、アメリカ人が、日本で聞かされてきた大胆で大雑把な性格をみんなが持っているわけではなく、一人一人様々な性格を持っていることもわかりました。中には、日本人より繊細で、とりわけ優しい心をもっている人もいて、自分の外国人に対するイメージが大きく変わりました。

F さん: アメリカの都市は私の予想に反して綺麗でしたが、いくつかの場所で汚い場所がありました。それは、地下鉄とトイレです。ボストンの地下鉄は普通のようにゴミが椅子の上に散乱していました。ニューヨークの地

下鉄は、突然合唱が始まるなどエンターテイメントに富んでいましたが、駅自体が公衆トイレの臭いがするという日本では考えられない体験をしました。

その他

N1 さん: 私は今回の留学に参加したきっかけは、ACE の説明会でなるべく1年のころから海外に行って異文化の体験をしたほうが良いと勧められたからでした。その中でノースイースタン大学の話がありました。そこで、自分には留学するに耐える英語力が足りないのを承知の上でまず飛び込んでみようと考えました。

N2 さん: 1 か月という時間は、終わってみれば長いようで本当に短い期間でした。限られた時間を無駄にしないためには、下調べをしておおまかにでも計画を立てておくことが大切だと思いました。特に知らない土地では不測の事態が起こることが多々あるので、余裕をもった行動や、時間厳守の意識は常にもっていなければならないと感じました。このことは今後日本でも、どこにいる時でも肝に銘じておきたいと思います。

F さん: アメリカの重要な建物は警備がかなり厳しく、私はバックパックだったのでよく没収されました。知らない人が自分の後ろに立っていると、狙われているのではないかとすぐに疑ってしまうこともありました。結果的に何の犯罪に巻き込まれることがなかったのがよかったのですが、外出時にはたくさんの神経を使ったのでいつも以上に疲れました。

H1 さん: 今回の研修参加以前は漠然と大学在学中に留学すると思っていた。もともとそのつもりで大学に入学した。しかし、大学の前期の講義や今回の研修で様々な話を聞いた結果、その考えに変化が起こった。私はただ単純に世界を見たいと思って留学という言葉を使っていたが、そこには実際問題としてお金や成績や言語能力が絡んでくる。また、何よりも大事なことはなぜ留学したいのか、留学したとしてそれをどう活かすのかということである。私は英語を使う仕事に就きたいと考えているし、そのため国際公務員に興味があるし、そうすると大学院を卒業する必要がある。このように、自分の将来の進路について考察し、その結果として留学というツールが新たに選択肢に加わるのだ。ただ漠然と留学したいと思っているだけでは、いけないのである。このような当たり前だが、以前の私は考えていなかったことに、今回の研修で気づくことが出来たし、決意を新たにすることが出来た。

H1 さん: 今回の研修参加を経て、自分の中で留学するということがより明確になった。今までの理想や憧れからもう一歩踏み出して、留学することの意義や目的、その後の展望など具体的な道筋がある程度形になり、そこから逆算して今からでも準備をする必要があることにも気づくことが出来た。

T2 さん: もうひとつ学んだことは、日本人はもっと活動的・積極的になるべきだということです。これは反省に近いかもしれませんが。低下する日本人留学生の数、学業以外を全力で楽しみ人間の幅をひろげながらも自分の将来像や希望する職業を常に追求し続けている海外の学生たちを見て痛感したことです。日本大使館の中村様が「つねに野心家たれ」というメッセージをくださいましたが、まさにその通りであると思います。上の2つの問題の原因として近年の日本経済・政治の衰退はたしかに多少影響しています。しかし最大の原因はなんといっても私たち学生自身の責任です。例を挙げることは失礼ですがアジアで客観的に経済力が日本より低いとされる国でも、NUには日本人より多く在籍していました。つまり学生の“内向き志向”は国の責任に転嫁するのは間違いだということです。中村様は現状を制度的に変えることは難しいと仰っていました。ですからやはり解決策はこれから社会に出ていく準備をしている私たち学生が「野心家」たることであり私は

考えます。

1ヶ月生活を共にした仲間について

N2さん: 約3週間ものあいだ寮で共同生活をしたのは初めてで、はじめは不安もありました。しかし、同じ場所に帰ってきて、一緒に食事をし、買い物に行き、協力しながら毎日の生活を共にすることで、お互いの仲がより深まったのではないかと思います。プライベートな部分と助け合う部分をしっかりとするのは、共同生活のなかで、難しいけれどもとても大事なことだと感じました。実家暮らしの私にとって、寮での生活は新鮮で、よい経験となりました。

N1さん: このプログラムで一番来てよかったと思ったことは、同じく研修旅行に参加したメンバーに出会えたことです。1年から4年、様々な学科の人や男女などいろいろな人がいました。特に印象に残っているのは、大学院に通っているTAの方や就職活動を経験した方に、自分では気づくことのできなかつたマナー違反や社会の中でのルールなどで指導されてしまう場面も多々あったことです。そして、自分がどんなことに興味を持っていて、どう将来について考えているか話すことができました。結論として、メンバー全員が高い意識をもって大学生活を送っていることや広い視野でキャリアデザインをしていることを感じて、後期からはより気を引き締めていかなければと思いました。

T1さん: 今回の研修では、同じ政治経済学部の学生13名と一か月間をずっと一緒に過ごすことで、その仲間から学べることも沢山ありました。特に、彼らは、将来への展望や夢がとても明確で、学生生活のうちに何をすべきかしっかりと考えられていて、私の考え方の甘さや危機感のなさが実感できました。そんな意識の高い学生と生活を共にできたことは本当にいい経験となりました。

H2さん: この研修が私にとって忘れられないものになったのは、引率して下さった松崎先生、TAの佐々木さん、そして学生のみんながいたからです。ボストンでもニューヨークでもワシントンでも思い残すことなくやり尽くせたのは、私の凄まじい行動スケジュールに付き合ってくれたみんなのおかげです。何度門限に間に合わなくなりそうになって、ニューヨークの街中を猛ダッシュしたか分かりません。このメンバーでなければ私はこんなに様々なことを学べた充実した1ヶ月にはならなかったと思います。本当にありがとうございました。